

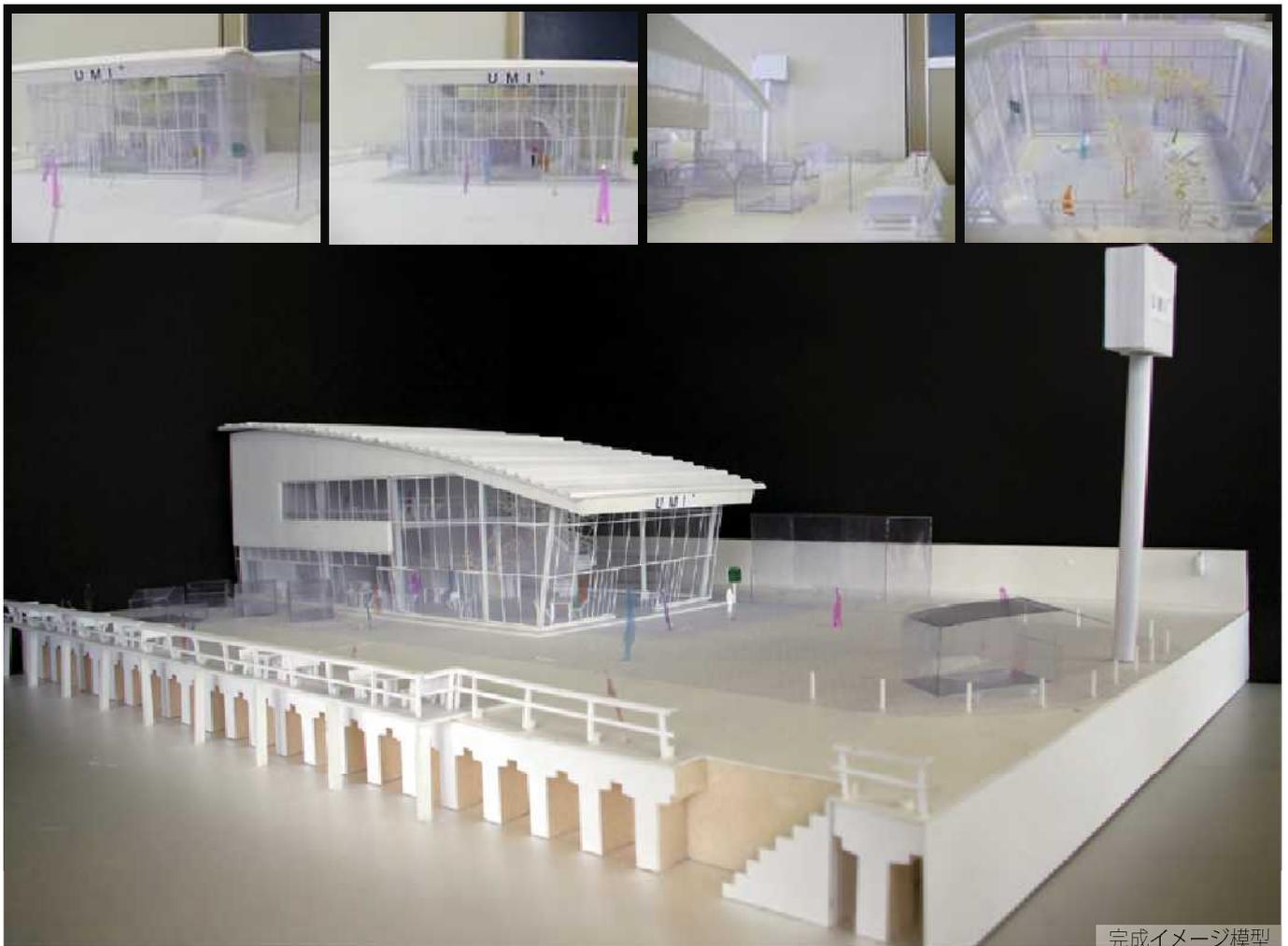
## 提案のポイント

まちづくりとは、人々の日常生活を崩してしまえば意味が無く、日常生活を少しだけ便利にし、また快適で楽しいものにするようなものであればいいな、と思う。そしてそれは、使いながら「こつこつ」作り上げるものであると思う。

これは、佐賀県唐津港における水辺空間の提案である。現在唐津港には、釣りをしに来る人や散歩をする人が日常的に訪れている。そういった人たちが、この場所でどんなことが出来たら楽しいか？大きな変化を作らなくても、「ちょっと楽しい日常」にすることは出来ないか？

ヒントは必ずいつもその場所が持っている。風景の見せ方、場所の使い方を少しだけ演出することで、唐津港から眺める海の景色が背景ならば、何気ないことも少しだけ素敵に見えてくる。また、唐津の地域住民にとって、車は欠かせない交通手段の一つであり、歩行者と車両が上手く共存することが、この場所の良さを最大限に引き出す鍵になる。

新しい唐津港の風景は、いつもこの場所を利用している人はもちろん、初めて訪れる人にとっても、魅力的なものになる。



九州西部に位置する佐賀県唐津市は、玄界灘に面し「唐の津（唐津港）」を中心として発展してきた「みなとまち」である。近年では、港としての物流・生産機能のほか、景観を活かした観光機能、釣りやヨット等のレジャー機能を有している。また、日本三大松原である虹の松原でも知られている。しかし一方で、漁港としての機能や、港湾施設の老朽化により船の受け入れ機能が十分でないこと、市民や来訪者にとって親しみに欠けている、といった問題点を抱えている。



唐津港では、数年前から地元地域が主体となってみなとまちづくりのあるべき姿や将来像を議論しながら、少しずつだが様々な取り組みがなされている。その取り組みは、再利用出来るものはうまく活用したり、譲り受けたものを使ったりしながら、可能な範囲で少しずつ進められていることが特徴である。

現在では、芝生広場や松林、鮮魚市場が整備済みである。また、海岸近くの空き地には佐賀県の重要文化財である唐津市歴史民俗資料館を移転する計画も提案されており、将来的に実施する予定である。



唐津港の大きな財産である、眺望。この風景の前では日常的な情景もちょっと素敵に見えてくる。特別なことはしないけど楽しいな、そんな空間の提案。

→ 変わってほしい。寒い、雨の日も車を大掃除する、おじいちゃんおばあちゃん水辺で遊ぶ子供、ゲートボールをするおじいちゃんおばあちゃん、ヨットに乗りに来た人等、現在唐津港を利用している人が少しだけ楽しくなるように、倉庫・倉庫周辺の水辺空間の使い方をデザインする。

→ 池が干涸びたところを再現したい。また、路地帯である。水辺周辺の水辺を囲むように、歩行者にも車利用者にも安全で楽しく過ごせる空間とする。



設計対象の「玄海ヤンマー」倉庫



なまよるお境所にしたい、という思いが込められている。



大勢の人も

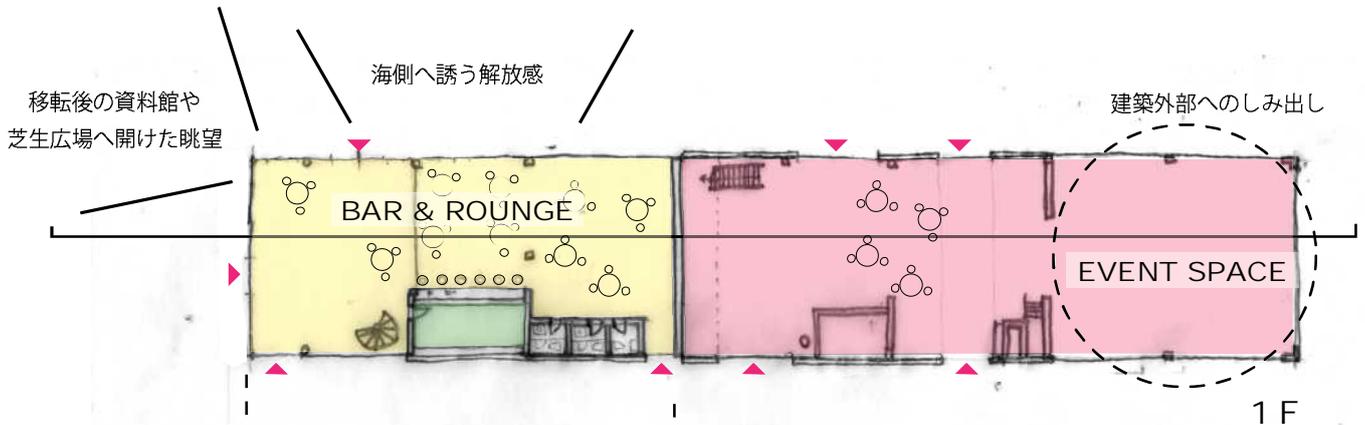
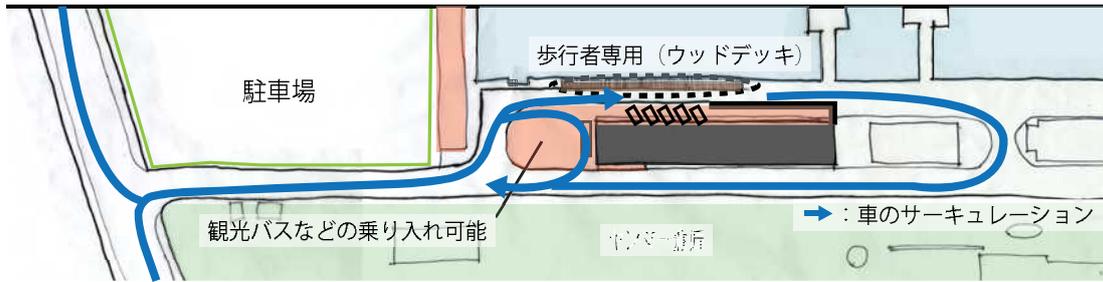
お楽しみ

から

から

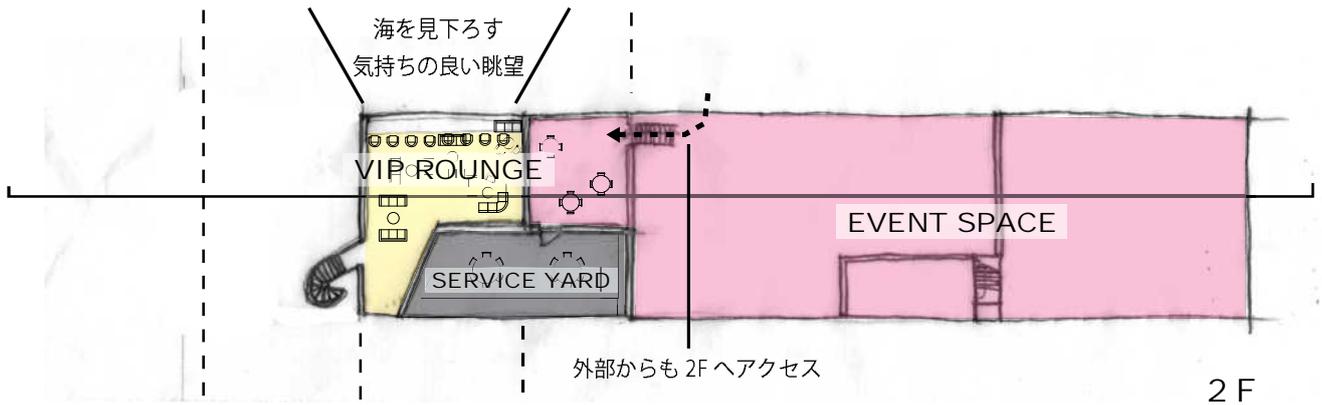
駐車スペースとテラス

2階から見た1階 Bar Lounge

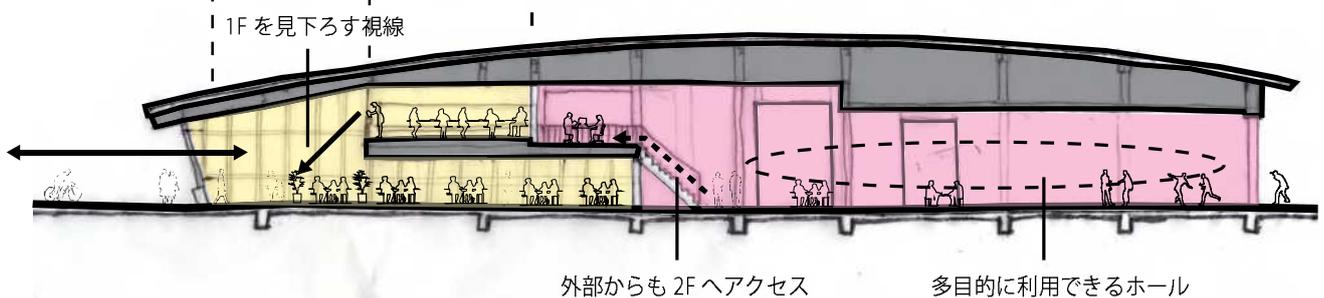


PLAN / SECTION 1 / 400

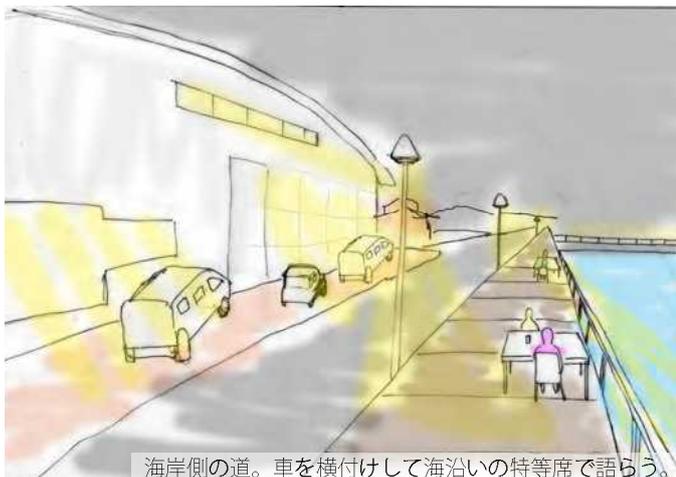
外に飛び出したくなるようにするために開口を大きくとっている。



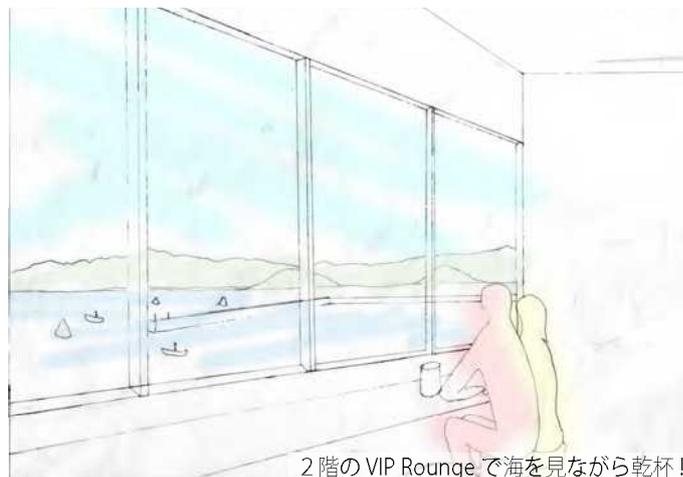
基本的には既存の空間構成を残すようにし、2Fは1Fから隔てられていないゆったりとしたラウンジスペースや、外との連続性を保った倉庫側のテラスがある。



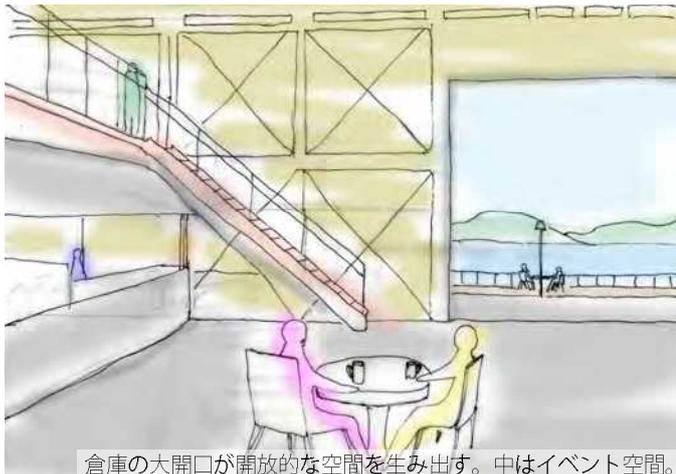
1F 前面の空間は、時にはカーショーなどといったイベントにも対応できる空間となっており、車の進入も可能である。



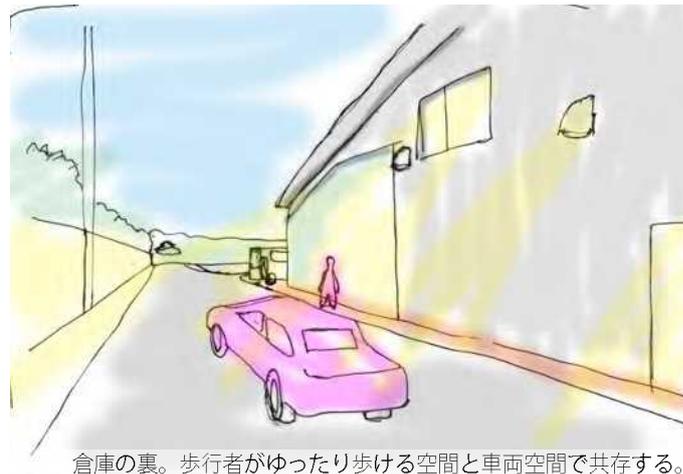
海岸側の道。車を横付けして海沿いの特等席で語らう。



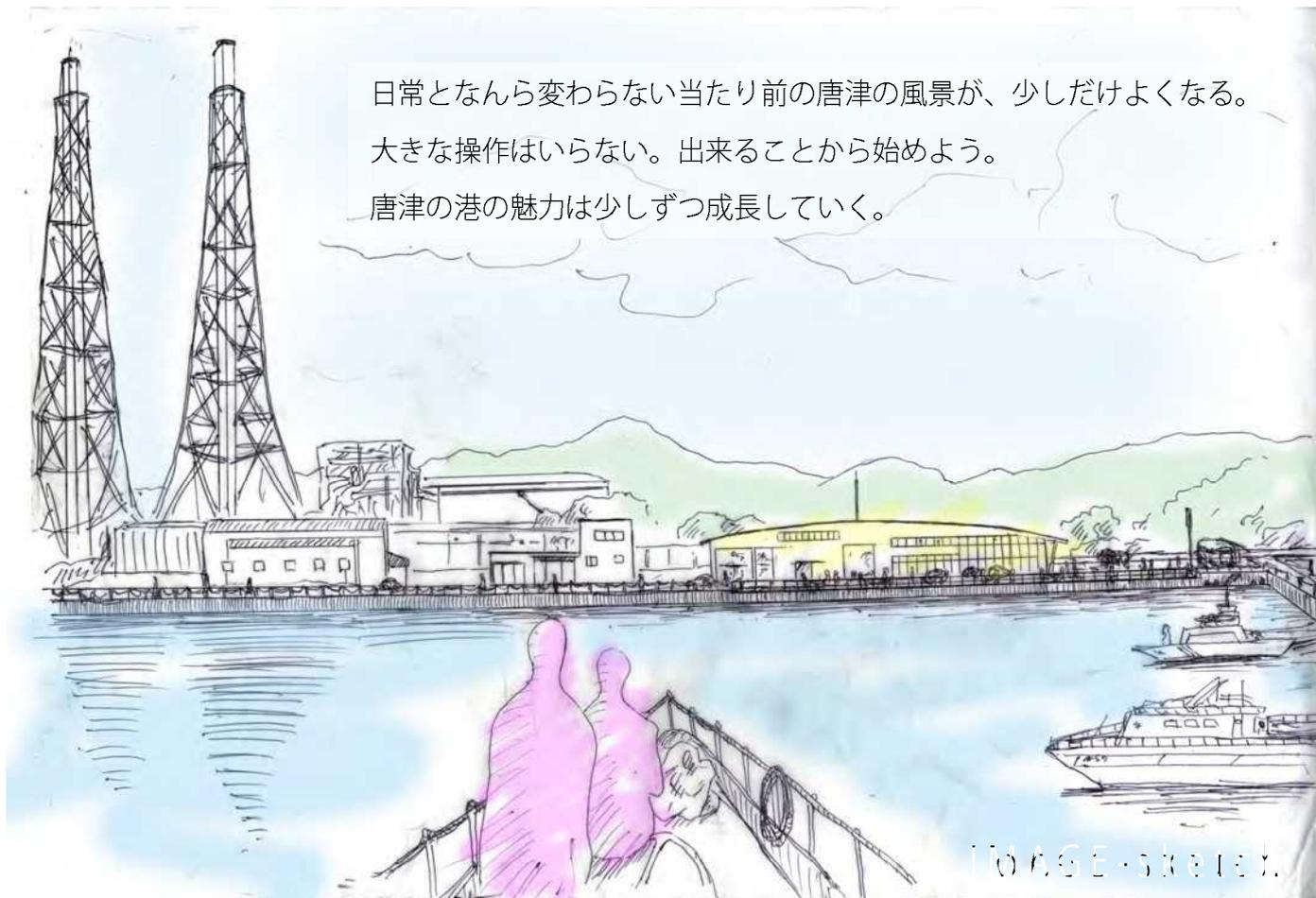
2階のVIP Loungeで海を見ながら乾杯！



倉庫の大開口が開放的な空間を生み出す。中はイベント空間。



倉庫の裏。歩行者がゆったり歩ける空間と車両空間で共存する。



日常となんら変わらない当たり前の唐津の風景が、少しだけよくなる。  
大きな操作はいらない。出来ることから始めよう。  
唐津の港の魅力は少しずつ成長していく。